

# 島根の地域医療

第5号

島根県健康福祉部医療対策課 '03. Nov. 10  
e-mail: iryou@pref.shimane.jp

▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



## ◇面白き/島根の医療/明日のため

皆さんこんにちは。島根県医療対策課の今岡です。よろしくお願ひします。今日は日頃から我が県の医療について考えていることを少し述べてみたいと思います。

「いつでも・どこでも」、「安心・安全」の二つが我々が目指している医療提供体制のテーマです。皆さんもご承知のように我が島根は多くの中山間地域と離島を抱えています。このことから一つ目のテーマが大きな目標となっています。また二つ目は「言わずもがな」の事柄ではありますが、改めて厳しく問われている今日的課題であります。

我が県のドクター数は全国平均値を上回っていますが、著しい地域的偏在がある上に、開業医さんをはじめとしてプライマリーケアを担っていたいでいるドクターについては、高齢化や後継者不足が顕著になっています。このため無医地区や準無医地区が年々増えている状況にあります。また、病院における専門診療科のドクター不足については、来年四月からの臨床研修の義務化や大学の独立行政法人化の影響を受け始めており、この傾向は中山間地域の中小病院を中心に現れています。

少し提供する話題が異なりますが、今島根が取り組んでいる最も大きな政策課題の一つが「少子化対策」です。人口わずか76万人、全国一の高齢化県にとっては深刻な課題であります。こうした中、生まれてくる数少ない赤ちゃんを安心して安全に産めるようにすることは極めて重要となっています。産婦人科医や小児科医の皆さんから直接話を伺うと「これからの分娩はチーム医療で取り組むべき」と言われています。県民の皆さんの安心感や医療事故防止の面からみるとこうした方向に必ず進んでいくものと考えられ、行政としてのスタンスもこのことを念頭に置いていく必要があると

思われます。

実情を少し述べてきましたが、私はこの四月から3度目の医療対策課勤務をすることになりました。若い時から強く感じておりましたことは、臨床の現場の方々の意見をもっと採り入れた医療行政を展開すべきとの思いであります。我が県が抱えている地域医療の課題は一つ一つが重く、またその数も多数に昇りますが「この通信」のようなきめ細やかな取り組みを積み重ね、コツコツと解決していくことが必要だと考えています。そうした意味からも皆様のお力添えと様々なご意見を頂きますようお願いいたします。

既に平成14年度から「へき地医療支援計画」などにより積極的な取り組みを進めていますが、「今島根の地域医療がおもしろい」と言われるよう更に頑張らねばと決意しています。どうかよろしくお願いいたします。

【医療対策課 今岡】

## 地域医療最前線その6

### ～島根で医師を続けてほしい～

それは、今年の8月、「地域医療等研修」を実施したときのことでした。「一度は医者になる夢をあきらめたが、これからの人生を考えたとき、やはり医者になって人の役に立ってきたい」という言葉を聞いたときに受けた感銘は、言葉では表せないものでした。

この研修は、5名前後の自治医科大学生と島根医科大学生からなる5班を編成し、県内5カ所の中山間・離島地域において2泊3日でへき地医療を実体験してもらい、地域医療に対する理解を深めてもらおうという事業です。私は、このうち県央地域の研修に同行しました。研修生は3名。いずれも島根医科大学の3年生でした。

主な内容は、公立邑智病院(石見町)でオペの立会や、病院泊まり込みの夜間救急外来体験。そして、加藤病院(川本町)の協力による訪問看護・訪問診療体験など、研修生にとって非常に有意義なカリキュラムを用意していただきました。

今回初めて医療の現場に立ち会わせていただきましたが、一番印象深かったのは研修生の経歴でした。実は3人とも、学士編入試験で今年

度入学した3年生だったのです。3月まで、1人は化学系製造業で技師として勤務。後の2人は他大学の薬学部在学していました。再入学の動機を聞いてみると冒頭の言葉だったのです。

彼らの情熱を活かすためにも、行政が島根の地域医療の枠組みを確保しなければとあらためて思いました。そして彼らが卒業する頃には、「島根で医者が続けたい」と言ってもらいたいのです。【医療対策課 田邊】

### 新島根大スタート

#### 医療福祉機能の強化を



～地域貢献に大きな期待～

▼島根大と島根医科大が統合し一日、新しい大学がスタートした。転機を迎えた地域の「知の拠点」に対して、地元関係者は人材育成、研究・教育基盤の拡充など、大学のさらなる発展と地域貢献に大きな期待を寄せた。▼過疎高齢化や不況にあえぐ地元自治体にとって、大学の知的資産は大きな魅力。澄田信義島根県知事は、統合による基盤強化に期待を込め「地域社会と連携を深め、島根の振興の大きな力になってほしい」と投げ掛けた。▼松浦正敬松江市長は、二〇〇五年七月にオープンする市立病院や福祉センターを例に「医学面での援助をはじめ、新たな連携ができれば」と切望。西尾理弘出雲市長も「両大学の融合で研究力を結集し、世界的な成果を挙げてほしい」とエールを送った。▼丸盤根島根県商工会議所連合会会頭は、法科大学院や教育学部の再編構想など、大学の積極的な取り組みを評価するとともに「産学官の連携、医療福祉の機能を強く発揮してほしい」と注文。▼島根県立大の宇野重昭学長は、単位互換制度やシンポジウムなどこれまでの大学間の連携を踏まえ「刺激し合いながら、地域に貢献していきたい」と互いの飛躍を誓った。▼同日が「開学記念日」として休業日となった新大学のキャンパスでは、生物資源科学部三年の加藤有美子さん(二一)が「学問の分野が広がるのはうれしい。生物を専攻しているので、医学系の科目も受講してみたい」と歓迎。一方で、医学部一年の末広聡士さん(二〇)は、部活動などで交流の幅が広がることに期待を寄せる半面「教養科目の受講で、松江へ移動する時間が取られるのでは」と不安をのぞかせた。

【山陰中央新報03.10.2より抜粋】


### ◇~~風に~吹かれて~~4

第26回日本プライマリ・ケア学会に参加  
6月21日(土)、22日(日)に札幌で開かれた第26回日本プライマリ・ケア学会に行っていました。「島根県

におけるへき地医療」という演題で、島根県のへき地医療の現状、支援システム、今後の展望等を発表しました。私の前に高知と徳島のへき地医療支援機構の専任担当者の発表があり、へき地医療支援機構の意義等に関して理解を深めていただくことができた様に思いました。今回の学会に参加して感じたことを報告します。

北海道、東北地方(北日本)と中四国、九州地方での医師数の較差(北日本がより少ない)を知ってはおりませんが、北日本の中小病院においては、標欠病院(医療法で定められた医師などの標準人員を満たしていない病院)になってしまう心配があるというようなことを聞き、改めて北日本のへき地医療の大変さを実感いたしました。へき地診療所の支援の前に、中小病院のマンパワー確保を考える必要があるようです。場合によっては診療支援が、標欠を補うひとつの方法であるという事実を知り、愕然といたしました。今まさに北海道等で医師の名義貸しの問題が大きく取り上げられておりますが、このへんにも原因があるのかもしれない。

昨年10月の調査では、へき地医療支援機構は全国で14県に設置されております。その専任担当者は自ら代診業務を行う場合もありますが、理想的にはへき地医療支援のコーディネーターであるべきと考えます。全国のへき地医療支援機構の専任担当者の会議というものは今のところございませんが、約10年前から「都道府県立病院設置地域医療部等連絡会」が自治医科大学により年1回開催され、そのなかでへき地医療支援等に関して検討されてきました。専任担当者の多くがこの会議に出席いたします。今後こういった会議のなかで専任担当者のあり方等に関しても十分に話し合い、全国のへき地医療の充実に向けて力を尽くしていこうと考えます。

 【医療対策課兼中央病院 木村】

## ◇へき地勤務医師を目指す医学生及び医学部大学院生へ

島根県では、へき地地域での医師不足の解消を図るため、平成14年からへき地医療奨学金制度を実施しています。制度の概要としては、へき地勤務医師を育成するため、

医学生：月額10万円

医学部大学院生：月額15万円

を貸与することとし、卒業後に貸与期間の2倍の期間内(医学生については、臨床研修期間の2年間を除く。)に、一定期間指定医療機関(主にへき地の医療機関)に勤務をすれば、奨学金の返還が免除されます。

### 県のドクターバンクから

#### ●求人・求職取扱状況

(平成15年10月31日現在)

#### <求人>27件

邑智郡(病院)／整形外科、精神科  
 鹿足郡(病院)／内科  
 浜田市(病院)／内科  
 飯石郡(病院)／内科  
 出雲市(診療所)／胃腸科、肛門科  
 邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療  
 益田市(病院)／精神科  
 隠岐郡(その他)／不問  
 鹿足郡(病院)／内科、外科  
 仁多郡(診療所)／内科  
 出雲市(診療所)／在宅医療  
 那賀郡(診療所)／内科  
 鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科  
 益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科  
 松江市(病院)／内科、麻酔科  
 浜田市(病院)／内科、放射線科  
 江津市(病院)／精神科  
 仁多郡(病院)／整形外科、眼科、内科  
 松江市(その他)／不問  
 簸川郡(診療所)／不問  
 邑智郡(病院)／泌尿器科、放射線科、産婦人科  
 八束郡(病院)／内科、リハビリテーション  
 八束郡(診療所)／内科、循環器科  
 松江市(その他)／不問  
 仁多郡(診療所)／内科、小児科  
 大原郡(病院)／麻酔科、精神科  
 出雲市(病院)／内科

#### <求職>1件

希望の担当科／老健施設・健診・麻酔科・一般内科・透析

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。

[専用電話] 0852-21-8813

[ホームページアドレス]

<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>

(担当：戸谷・吉岡)

貸与の条件としては、

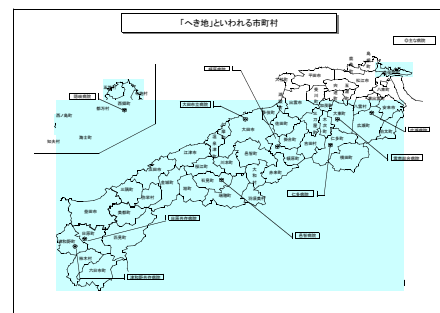
へき地勤務医師を目指す ①県内在住の医学生及び医学部大学院生 ②島根県内高校出身の医学生及び医学部大学院生

としており、上記の条件を満たせば、県外の大学等において医学を学ぶ医学生・医学部大学院生でも貸与を受けることができます。

「へき地」という言葉を聞くと、とかくいいイメージを持ちませんが、地図にある市町村がこの制度に該当します。

義務年限も、貸与期間の2倍の期間内のうち貸与期間相当期間となっており、医学生の場合で、1学年から

6学年まで貸与を受けると、臨床研修を2年間修了後、12年間のうち6年間県内の指定医療機関に勤務すれば、返還が全額免除されます。少なくとも毎年、勤務医療機関の在職証明



の提出は必要(勤務の所在を明確にするため)ですが、指定医療機関に勤務していない期間は、他の病院に勤務することは可能であり、大変使いやすい制度だと思います。興味をもたれた方はご連絡を!

【医療対策課 佐々木】

### None Blue Rose



ふだん我々は何か行動や企画を起こす際に前例や基準を求める。先験的な取り組みを先進地視察し、施設や設備では最低基準を順守する。法規や基準となる考え方を枠組みに、周りがどうしているかという世間の目も参考にしながらの毎日を送る◆問題や事件が起こるたびに「もっと取り締め」「指導せよ」という声が大きくなり、規制が強まることはよくあることである。他者に一挙手一投足を決めてもらってきた結果、人々をがんじがらめにしぼる規制社会ができあがる◆反対に、規制緩和とは積み重ねてきたものを見直していく作業にほかならない。自分に自信がないゆえに、他からしつらえられたやり方で安心するという習性をもつ社会では、規制を緩和しようとするとならぬことに抵抗がある◆幸いにへき地医療従事者の確保対策には多くの規制はない。新たな発想で島根の明日を築いていきたい。人々の知恵を借りつつ、自らの感覚と足で実行できるよう目指す毎日である [F]

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことでBlueRoseは不可能という意味。NoneBlueRoseは私たちのへき地医療への熱いメッセージです。



島根県庁医療対策課の連絡先

E-mail / [iryou@pref.shimane.jp](mailto:iryou@pref.shimane.jp)

TEL / 0852-22-5251

住所 / 690-8501 松江市殿町 1

ホームページ [島根の医療]

<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>